

## 高野山大学沿革史

高野山大学は、初め古義大学林と称し、明治 19 年（西暦 1886）5 月 1 日開講した。これよりさき明治の初期、有志相謀って紀州高野山、京都智積院、大和長谷寺の三山に学林を設置して学徒を教養したがこれ等は何れも学生少なく、その制度も区々で一定せず、宗門の教育は甚だ振わなかった。かくて明治 12 年真言宗本末合同大成会議も決議によって翌 13 年京都東寺に真言宗総覺を設け、かの高野、智、豊、三山の学林を大学林と改称し、各地方に中学林を設けた。総覺は三山及び各地の学生中より優秀なる者を選抜して入学せしめ、高野山大学林に於ては大学林乳水社を結成し、その経営資金を得て古義派所属僧徒の教育をした。かくて明治 19 年真言宗合同会議の決議により再び学生を改め、東寺の真言宗総覺を改めて事相講伝所とし、専ら事相練磨の道場とし、高野山には古義大学林を設け、東京音羽護国寺には新義真言宗大学林を設けた。依って高野山興山寺の遺跡 3433 坪の地に校舎を整え、同年 5 月 1 日開校し、金剛峰寺座主獅子岳快猛大僧正が大学林総理となった。当時の学則は修業年限を 7 年とし専ら自宗多宗の宗義学を授けた。

明治 23 年(1890)	1 月	修業年限を 4 年 6 カ月に改正した。
明治 34 年(1901)	5 月	古義真言宗各派の連合成立した真言宗各派連合大学林と改称した。
明治 40 年(1907)	7 月	真言宗連合会議の決議により、私立真言宗連合高野山大学と改称し、真言宗連合高野山中学林並びに真言宗京都中学卒業生を別科生として収容することとなった。
明治 42 年(1909)	4 月 10 日	専門学校令により開校を認可せられた。
大正 5 年(1916)	3 月 16 日	私立真言宗連合高野山大学を私立真言宗高野山大学と改称した。
大正 15 年(1926)	4 月 2 日	大学令により高野山勸学財団の経営に係る高野山大学の設立を認可せられた。
	4 月	真言宗高野山大学及び私立真言宗連合高野山大学は、大正 7 年文部省令第 3 号第 2 条第 4 号により高等学校大学予科と同等以上の指定を受く。
昭和 2 年(1927)	4 月	高野山大学学部を開設した。
昭和 3 年(1928)	1 月 17 日	学部哲学及び学科を哲学科と改むる件並びに学部学科課程変更の件等に関する学則変更の認可を受く。
昭和 4 年(1929)	1 月 16 日	学部哲学科を哲学又は西洋倫理学専攻の二類に分つ等に関する学則変更の認可を受く。
	4 月 30 日	真言宗高野山大学を昭和 4 年 3 月限り廃止するの件認可せられた。
昭和 5 年(1930)	4 月	研究科開設。
	8 月 25 日	学部に東洋哲学史を開設し、哲学科必修科目変更等に関する学則変更の認可を受く。
昭和 7 年(1932)	9 月 2 日	学部一般仏教学科を仏教学科と改称する件等に関する学則変更の認可を受く。
昭和 14 年(1939)	3 月 31 日	4 分科を廃し、密教学、仏教学、仏教芸術学、哲学及び人文学の他に宗教教育学、社会事業学の専攻学科増設の件に関する学則変更の認可を受く。
昭和 16 年(1941)	5 月 6 日	学部に国語学、国文学、支那文学の科目増設の件等に関する学則変更の認可を受く。
昭和 24 年(1949)	2 月 21 日	校学第 128 号をもって学則改革に伴う新制高野山大学の認可を受け、文学部に密教学科、仏教学科、仏教芸術学科、哲学科、社会学科、国文学科をおく。
昭和 26 年(1951)	2 月 27 日	地管第 75 号をもって財団法人高野山勸学財団を学校法人高野山学園に組織変更する認可せられた。
昭和 27 年(1952)	5 月 1 日	校管第 823 号をもって大学院修士課程設置の認可を受く。
昭和 31 年(1956)	3 月 1 日	校大第 53 号をもって文学部人文学科中、英文学専攻の増設を認可せられた。
昭和 42 年(1967)	12 月 10 日	密教文化研究所竣工
昭和 43 年(1968)	3 月 30 日	校大第 197 号をもって大学院文学研究科（博士課程）の増設を承認せられた。
昭和 45 年(1970)	1 月 12 日	校大第 99 の 26 号をもって文学部人文学科中、国史学専攻及び社会学科、社会学専攻、

		社会福祉学専攻の増設を承認せられた。
昭和 46 年(1971)	10 月 10 日	大学ホール「法輪館」竣工
昭和 48 年(1973)	10 月 1 日	摩耶寮（女子寮）設置
昭和 51 年(1976)	6 月 1 日	クラブハウス竣工（研究所裏）
昭和 52 年(1977)	12 月 1 日	グラウンドクラブハウス竣工
昭和 53 年(1978)	1 月 5 日	紫雲寮（男子寮）食堂竣工
昭和 54 年(1979)	8 月 31 日	クラブハウス竣工（東門横）
	10 月 24 日	ゼミナール校舎竣工
昭和 56 年(1981)	6 月 20 日	紫雲寮（男子寮）新築竣工
昭和 57 年(1982)	3 月 3 日	図書館新書庫竣工
昭和 58 年(1983)	12 月 10 日	加行道場新築竣工
昭和 61 年(1986)	2 月 22 日	護摩道場新築竣工
	4 月 11 日	校舎新築竣工
	10 月 15 日	創立 100 周年記念式典挙行
平成 2 年(1990)	3 月 26 日	文教教第 40 号をもって教育職員免許状授与に係る再課程認定及び聴講生の課程を認定された。
平成 3 年(1991)	2 月 27 日	文教教第 40 号をもって、高等学校の地理歴史、公民の教育職員免許状授与に係る大学の正規の課程（密教学科、仏教学科、人文学科哲学専攻、人文学科国文学専攻）を認定された。
	3 月 25 日	文教教第 40 号をもって、中学校の社会、高等学校の地理歴史、公民の教育職員免許状授与に係る大学の正規の課程（人文学科国史学専攻、社会学科社会学専攻、社会学科社会福祉学専攻）を認可された。
	9 月 30 日	校高第 44 号をもって、平成 4 年 4 月 1 日から平成 12 年 3 月 31 日までの期間を付した入学定員の増加に係る学則の変更を認可された。
平成 4 年(1992)	12 月 12 日	櫻寮（女子寮）新築竣工
平成 6 年(1994)	5 月 26 日	グラウンド改修工事完成
平成 7 年(1995)	3 月 14 日	大基委判第 63 号をもって、平成 7 年 4 月 1 日から大学基準協会維持会員として加入することが承認された。
	3 月 17 日	石楠花寮（女子寮）新築竣工
	9 月 20 日	弓道場新築竣工
平成 8 年(1996)	3 月 21 日	研究室棟新築竣工
	10 月 18 日	創立 110 周年記念式典挙行
平成 9 年(1997)	5 月 12 日	校高第 10 の 70 号をもって、平成 10 年 4 月 1 日から文学部人文学科の哲学専攻、国文学専攻、英米文学専攻、国史学専攻及び社会学科の社会学専攻、社会福祉学専攻の各専攻を廃止し、人文学科、社会学科と称する高野山大学学則の一部変更が受理された。
	11 月 8 日	体育館、武道場、大学ホール新築竣工
平成 11 年(1999)	10 月 22 日	校高第 26 号をもって、期間を付した入学定員(平成 12 年度から平成 16 年度まで)の設定に係る学則の変更を認可された。
平成 12 年(2000)	2 月 16 日	文教教第 40 号をもって、中学校の宗教、国語、社会、高等学校の宗教、国語、書道、公民の教育職員免許状授与に係る大学学部等の課程（文学部密教学科、仏教学科、人文学科、社

		会学科)を認定された。
	10月 26日	校高第 26 号をもって、期間を付した入学定員（平成 13 年度から平成 16 年度まで)の設定に係る学則変更を許可された。
	12月 21日	校高第 1 の 246 号をもって、平成 13 年 4 月 1 日から社会学科を社会福祉・社会学科に名称変更することに係る寄付行為の変更を許可された。 校高第 28 の 128 号をもって、平成 13 年 4 月 1 日から社会学科を社会福祉・社会学科に名称変更することに係る学則変更の届出を受理された。
	12月 21日	文教教第 40 号をもって、中学校の社会、高等学校の福祉、公民の教育職員免許状授与に係る大学学部の課程(文学部社会福祉・社会学科)を認定された。 文教教第 40 号をもって、中学校及び高等学校の宗教の教育職員免許状授与に係る大学院の課程(文学研究科密教学専攻、仏教学専攻)を認定された。
平成 13 年(2001)	3月 31日	摩耶寮（女子寮)を閉鎖
平成 14 年(2002)	10月 3日	14 校文科高第 353 号をもって、平成 15 年 4 月 1 日から人文学科を日本文化学科に名称変更することに係る寄付行為の変更を認可された。 14 校文科高第 542 号をもって、平成 15 年 4 月 1 日から人文学科を日本文化学科に名称変更することに係る学則変更の届出を受理された。
	10月 28日	14 校文科高第 368 号をもって、平成 15 年 4 月 1 日から文学部人文学科の収容定員の減少に係る学則変更を認可された。
	12月 19日	14 校文科高第 458 号をもって、期限を付した入学定員(平成 15 年度、平成 16 年度)の設定にかかわる学則変更を認可された。 14 校文科高第 459 号をもって、期限を付した入学定員の廃止に伴う収容定員の増加に係る学則変更を認可された。 文学部仏教学科については、平成 15 年 4 月 1 日で学生募集を停止する。
	12月 19日	14 校文科第 482 号をもって、平成 15 年 4 月 1 日から大学院の収容定員の変更に係る学則変更の届出を受理された。
平成 15 年(2003)	11月 27日	15 文科高第 589 号をもって、平成 16 年 4 月 1 日から大学院文学研究科における通信教育開設を認可された。
平成 17 年(2005)	8月 8日	文学部にスピリチュアルケア学科を設置届出。（平成 18 年度開設） 文学部日本文化学科及び、社会福祉・社会学科については、平成 18 年 4 月 1 日で学生募集を停止する。
平成 18 年(2006)	10月 1日	創立 120 周年記念式典挙行
	10月 1日	松下講堂黎明館新築竣工
平成 19 年(2007)	3月 31日	紫雲寮（男子寮)を閉鎖
平成 22 年(2010)	4月 1日	文学部スピリチュアルケア学科については、平成 22 年 4 月 1 日で学生募集を停止する。
平成 22 年(2010)	6月	文学部日本文化学科及び社会福祉・社会学科を廃止。

## いのち・文化・創造

### 高野山大学文学部の教育理念

弘法大師の精神に則り、「いのち」のあらゆる営みを尊び、人間とその環境の共存共生をはかり、諸民族諸地域の文化を理解し、新しい文化を創造して、社会に貢献する人材を育成する。

### 文学部の教育理念及び教育目的

#### (1) 教育理念

弘法大師の精神に則り、「いのち」のあらゆる営みを尊び、人間とその環境の共存共生をはかり、諸民族諸地域の文化を理解し、新しい文化を創造して、社会に貢献する人材を育成する。

#### (2) 教育目的

- ① 生命尊重の精神に基づき、人間の存在と叡智を敬い、文化の諸相を理解する能力を養う。
- ② 地域社会および生活文化を重視し、その新しい発展に寄与する創造性を養う。
- ③ 専門的知識と実践的技能の修得を通して、社会に貢献する人間性を培う。

### 各学科の教育目的

#### (1) 密教学科

弘法大師空海の真言密教を、アジア諸地域の密教文化との比較を通じて、総合的な視野のもとに把握し、「いのち」のあらゆる営みを尊ぶ真言密教の精神を具現できる、豊かな人間性を持った人材の育成と後継者の養成を目的とする。

##### ① 真言宗学コース

弘法大師以来の真言密教を専門的に教育し、教相と事相の二部門からなる真言宗学の学習とその伝統の継承を目指す。

##### ② 密教・仏教文化コース

密教・仏教の思想や歴史を国際的な視野に立って教育し、インドよりアジア諸地域に広がった密教や仏教の総合的な学習を目指す。

##### ③ アジア文化歴史コース

日本文学・日本史、書道、さらには中国の哲学や文学など、広くアジアで展開した文化や歴史の学習を目指す。

#### (2) スピリチュアルケア学科

仏教および密教の教えをもとに、人間の心理と行動に関する専門的知識と実践的技能の修得を通して、現代社会が直面している医療・福祉・教育等の分野における「いのち」に関わる諸問題に対応できる、人間性豊かな人材の育成を目的とする。

##### ① スピリチュアルケアコース

仏教・密教及び心理学の理論を融合させたスピリチュアルケアの理論と実践法の学習を通して、社会のあらゆる現場で新しい形の対人援助ができる人材を養成することを目指す。

##### ② 臨床心理・福祉コース

スピリチュアルケアの理論と実践を社会福祉や心療関係の現場で即戦力として生かせる人材を養成することを目指す。

以上、文学部の履修規定より

## 高野山大学大学院文学研究科の教育理念

弘法大師空海の真言密教を、広くアジア諸地域の密教文化、仏教文化との関連のもとに総合的に明らかにし、実践を通じてその蘊奥に触れ、深く豊かな学識と幅広い視野のもとに、現代社会にその精神を発揚する人材を育成し、文化の質的向上と進展とに寄与する。

### 修士課程の教育目的

国際的・学際的な視野のもとに、広くアジア諸地域の密教文化、仏教文化を総合的に明らかにし、現代社会にその意義を発揚できる人材を育成する。

博士前期課程コース(修士課程。修業年限二年)の他に、社会人コースと僧侶コース(何れも修士課程のみ)を置き、次の如くそれぞれの教育目的を定める。博士前期課程コース(修士課程)は、密教、仏教の教理および実践を学術的に究めることによって、現代における諸問題にも柔軟に対応する知見を得て、高度な専門性を有して指導的役割をになう専門家を育成する。

- (1) 社会人コースは、社会人が生涯学習の観点に立ち、実社会におけるさまざまな経験を生かしつつ、さらには、インド(チベット・東南アジア諸地域を含む)・中国・日本を中心にした密教学・仏教学の思想、歴史、文化、特に弘法大師の思想等の諸分野・領域において、伝統的且つ専門的な学問・教育を修得し、自由で独創的な研究を通して、社会に有用な人材の育成を目的とする。
- (2) 僧侶コースは、密教学専修に特化し、高度にして伝統的・専門的な教育の展開と僧侶としての技能教育の実修を行い、独自の研究課題の深化を図り、本宗寺院後継者を中心として、それぞれの時代に即応し得る、有為な真言宗僧侶、青年教師を育成することを目的とする。

### 博士課程の教育目的

博士課程は、前期(修業年限二年。修士課程として取り扱う)・後期(修業年限三年)に分け、修業年数を五年とし、以下の教育目的のもと、一貫した教育・研究を行なう。

- (1) 広くアジア諸地域の密教文化、仏教文化について、深く豊かな学識と幅広い視野のもとに総合的な判断力を備えて、現代社会にその精神を発揚する、高度な専門性を有する研究者および職業人を育成する。
- (2) 国際的、学際的な視野のもとに、独創的な発想と柔軟な思考とをもって、密教学、仏教学およびその関連分野に新しい知見をもたらす、高度な学術研究と専門能力を有する材を育成する。
- (3) 密教文化研究所との相互協力関係をたもち、広くアジア諸地域の密教文化、および弘法大師以来の伝統的真言密教の資料収集、調査など総合的学術研究に携わる研究者を育成する。

以上、大学院の履修規定より

※ 文学部各学科・大学院・別科の教育の特色、ならびに3つのポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)等、それぞれの掲載ページをご覧ください。